やすらぎ

京都市立病院
広報誌

2018・10

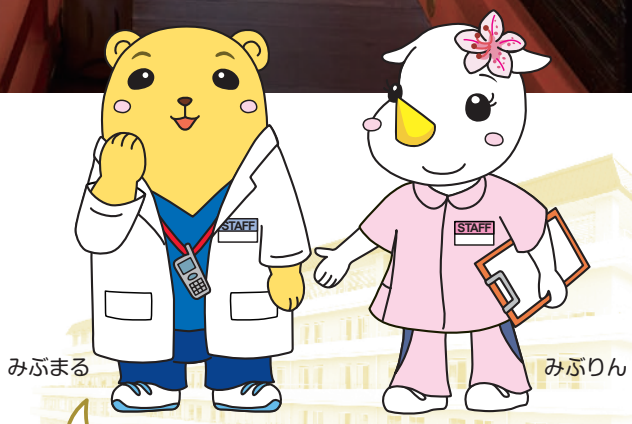
秋

毘沙門堂（山科区）

—特集—

京都市立病院皮膚科で特に力を入れて診療している皮膚疾患について

◆ その“糖尿病の疑い” 放置していませんか？
◆ 入院支援センターのご紹介
◆ 医療安全推進室の活動紹介
◆ 医療通訳について



みぶまる　みぶりん

みぶまる・みぶりんのことを
知りたい方は、当院ホームページ
をご覧ください

地方独立行政法人 京都市立病院機構
京都市立病院

京都市立病院皮膚科で特に力を入れて診療している皮膚疾患について

入 院

入院での治療で力を入れている疾患は、以下のような重症のいろいろな疾患です。

1 重症のアトピー性皮膚炎、重症薬疹、水疱症など

外来では管理の難しい場合に入院していただきます。

2 重症の感染症

顔面に生じる丹毒（赤い腫れ）や下腿に生じる蜂窩織炎（ほうかしきえん）などの細菌感染症が多いです。
また、水疱（水ぶくれ）や神経痛を生じる帯状疱疹などのウイルス感染症があります。

3 皮膚腫瘍（皮膚がんなど）

一部の大きな脂肪腫や粉瘤などの良性の腫瘍や多くの皮膚がんは入院で手術を行います。
高齢化社会に伴い、皮膚がんが増加しています。皮膚がんを見分けるのは、正確な診断が必要です。当院では、ダーモスコピー検査（拡大鏡）、超音波検査、CT 検査等を実施し、診断や治療方針の決定を行っています。皮膚がんには多くの種類がありますが、今回は３つの皮膚がんについて紹介させていただきます。

●基底細胞がん

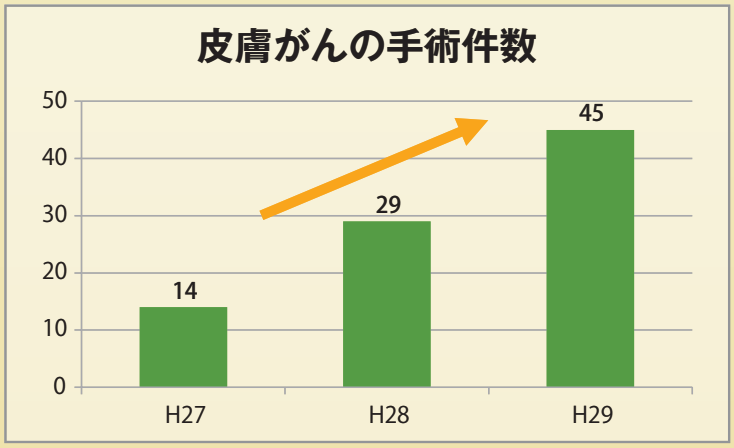
最も多い皮膚がんで、顔面に好発し、黒色の結節（盛り上がり）や潰瘍（きず）としてみられます。ゆっくり増大し、転移はまれながんです。

●有棘細胞がん

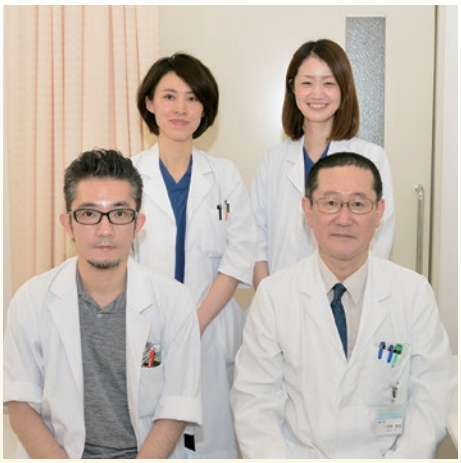
紫外線の影響で顔面や手などにできやすく、また熱傷（やけど）のあとなどにも生じます。紅斑（赤い面）、イボ状の結節や潰瘍などを形成します。

●悪性黒色腫（メラノーマ）

「ホクロのがん」とも呼ばれ、予後の悪い怖いがんです。通常ホクロのように黒い色をしていますが、形がいびつであったり、色にむらがあったりします。時間とともに大きくなるのが特徴です。進行して転移を生じたときには、ノーベル賞につながったオプジーボという薬などが使われます。



人間の頭のてっぺんから足のつま先までおおわれているのが皮膚です。この皮膚には、かぶれ（湿疹）、水虫（白癬）、できもの（腫瘍）など様々な病気が生じます。今回、当科で積極的に診療されている皮膚疾患を紹介させていただきます。当科の取り組みにご関心があれば、病院のホームページの診療科の紹介もご参照下さい。



皮膚科 竹中部長（下段右側）

外 来

外来においては、重症な皮膚疾患の診療を中心に、皮膚疾患全般の診療を行っています。特に力を入れている疾患は、アレルギー疾患、アトピー性皮膚炎、乾癬、皮膚潰瘍、皮膚腫瘍などです。

1 アレルギー性疾患

接触皮膚炎（かぶれ）、アナフィラキシー（蕁麻疹、血圧低下）、薬疹などがあります。パッチテスト、プリックテストなどの皮膚検査や血液検査で原因検索を行います。アレルゲンには化粧品など皮膚に触れるもの、食物、薬剤などがあり、原因は多彩です。

2 アトピー性皮膚炎

スキンケア・保湿などの生活指導、外用・内服療法、新規の注射薬（デュピクセント）などきめ細かい治療を行っております。専門外来も設けています。

3 尋常性乾癬、乾癬性関節炎

生活習慣病との関連が明らかになってきていますので、食事指導なども重要です。外用・内服療法、紫外線療法、注射薬（生物学的製剤）など一人一人の症状に応じた治療を行っております。

4 皮膚潰瘍、熱傷

動脈硬化、糖尿病、肥満、静脈のうっ滞（静脈瘤）などにより、下肢（足やすね）に治りにくいきずを生じます。難治な時は、入院して植皮術などの手術を行います。

5 皮膚腫瘍

多くの手術は、局所麻酔による日帰り手術で行っています。顔面などでは、なるべく手術後のきずが目立たなくなるように配慮しています。

皮脂欠乏性湿疹について ― 乾燥の季節に! 気をつけて ―

高齢になると、皮膚のうるおいがなくなり乾燥しやすくなります。特に冬に向けて、皮膚が乾燥することにより、かゆみが起こることがあります。症状がひどくなると、皮膚がひびわれ、赤色をおび、亀の甲羅のような紋様が見られるようになります。

皮膚欠乏症の乾燥を防ぐためには、入浴時において石鹸の使用を控えたり、タオルでゴシゴシと擦るような洗い方をしないことが大切です。また、暖房も乾燥を助長しますので、控えめにしましょう。入浴後などに、市販の保湿剤でもよいので、油分を補うようにします。

症状がひどければ、皮膚科を受診しましょう。

その“糖尿病の疑い”放置していませんか?

糖尿病代謝内科
小暮部長

6人にひとり

糖尿病は、日本では“疑い”の方を含めると2000万人ほどおられます。国民の6人にひとりですから、みなさんの周りにもたくさんおられるはずです。健診などで高血糖を指摘され糖尿病の疑いとされても、“そんなの、私もずっと前から言われているけどどうもないよ”というささやきに騙されていませんか。

実はこわい

糖尿病は、血液中のブドウ糖が有効に使われないために、慢性的に血糖値が高くなる病気です。進行すればのどが渇く、よくトイレに行く、全身がだるい等の症状が現れますが、初期症状はありません。また、これら症状もゆっくり進行するため、ご自身では気づいておられないこともしばしばです。糖尿病が悪いコントロールのまま長期化すると、手足のしびれ、視力低下や腎不全などの糖尿病に特徴的な合併症を引き起こします。それだけではなく、脳梗塞や心筋梗塞といった大きな血管の病気の原因にもなりますし、最近ではがんや認知症の原因になっていることも分かりました。

初期治療が大事

日本人の糖尿病の95%以上を占める2型糖尿病では、たいていの場合、前段階（いわゆる予備群）を経て徐々に進行します。毎年健診を受けて早いうちから治療に取り組めば、糖尿病の発症予防も可能な場合があり、糖尿病になったとしても通常の健康な人となんらかわらない生活をおくることができます。ところが、今でもいろいろな症状が出てから病院に来られて未治療の糖尿病が原因と分かることもしばしばです。症状が出てからでは、元の状態には戻りません。せっかくいろいろな病気を防ぐチャンスなのに、放置してしまうのはもったいなくないですか。

皆で取り組みたい健康生活

糖尿病の治療の基本は、食事・運動療法です。平たく言えば適正なカロリーをバランスよく摂取し、有酸素運動をおこなうことになります。これは、糖尿病の人だけでなく、いま健康な人にとっても健康長寿につながることですので、家族全員で取り組めるとよいですね。
ときどきテレビやマスコミなどで話題になるような、特定の飲食物やサプリメントが糖尿病に劇的な効果をもつことはありませんので、まずは日常生活を見直しましょう。
ただし、どのような治療が適しているかはケースバイケースの部分もありますので、最初にかかりつけ医で相談してください。

当院での糖尿病患者さんへの取組などは
次号で取り上げる予定です。お楽しみに!

安心して入院し、治療を受けていただくために

入院支援センターのご紹介

入院支援センターでは、入院される患者さんに入院、手術時の準備用品、治療予定に基づく入院生活の説明、現在使用しているお薬の確認、退院後の生活について、患者さんが安心して入院できるよう支援します。

～ 入院支援センターから入院・退院までの流れ～

当院で入院が決まったら、入院支援センターに来ていただきます。
当院入院支援センターは、本館１階の外来エリアにございます。

医師

～外来受診～

医師による診察があります。
病状についての説明や入院・治療の予定を立てます。
入院が決まれば、入院支援センターへご案内します。

～検査～

入院にあたり必要な検査を実施し、
万全の準備をします。

薬剤師

～薬剤鑑定～

薬剤師が現在飲んでおられるお薬の確認をします。
受診時にはお薬手帳を忘れずにお持ちください。

患者さんには問診票の記入をお願いしています。

治療に影響しないようアレルギーの確認や、安心して在宅で暮らせるようケアマネジャーの情報などを確認します。

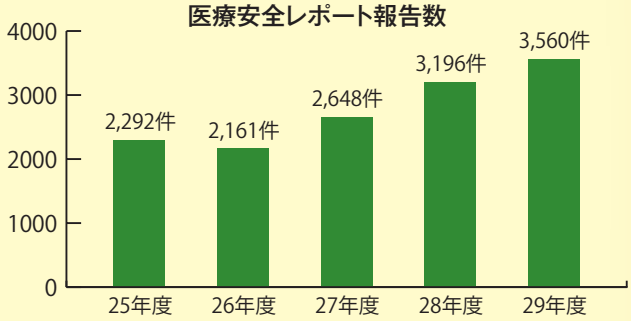
看護師

～看護面接～

入院に必要な準備用品や治療予定に基づいた入院生活の説明をいたします。入院から退院後の生活で不安に思われること、又入院に際してのご心配などもおうかがいします。

入院の日は京都市立病院
６番窓口までお越しください。

医療安全推進室の活動紹介



医療安全推進室では、ヒヤリ（危険だと思った）としたことや医療事故に関する医療安全レポート提出を促し、情報収集に努め、その内容を分析し、再発予防策を立案するなどの活動をしています。

昨年度の当院の医療安全レポート報告件数は3560件でした。レポート報告は、毎月病床数の半分以上の報告があれば、医療安全意識が高いとされています。当院は年々報告件数が増加しており、病院スタッフの安全に対する意識の向上が伺えます。

その他にも医療安全活動を推進するため、各部署内には医療安全マネージャーを配置し、部署マネージャーへの支援も行っています。

また、医療安全に係る研修会を毎月開催し、医療安全の意識と技術向上に努めています。

さらに、院内巡視を定期的に行い、各種マニュアルや委員会で決められた改善策などが行われているか、実施状況の確認もしています。

日本医療機能評価機構等から得た医療安全に関する情報を職員に発信し、本院の活動に活用しています。

その他活動

- **患者相談窓口**

  患者さんやご家族から、医療安全に関するご質問、ご相談、ご意見などを伺い、不安なく治療を受けられるようお手伝いをしています。

- **院内急変対応推進チーム**

  院内で容態が急変した患者について振り返り、異常の早期発見、迅速な対応についての職員の質向上を支援しています。

- **虐待対策チーム**

  児童、高齢者、障害者に対する虐待とDVについて、早期発見と救出のため、他機関と連携して対応しています。

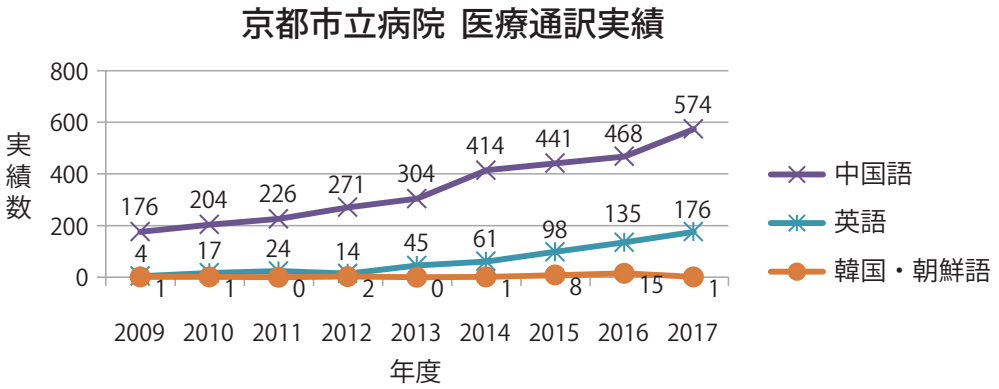
医療安全推進室は、医療事故の防止及び医療安全の推進を図り、患者さんから信頼される安全な医療の提供を目指しています

医療通訳について

当院では、京都市、公益財団法人京都市国際交流協会、特定非営利活動法人多文化共生センターきょうとが協働して実施している「医療通訳派遣事業」を利用して、医療通訳の方に来ていただいています。

◆医療通訳派遣事業とは

医療機関に対して通訳者を派遣することで、多様な文化背景を持つ多国籍市民が安心して医療サービスを受け、安全に暮らすことができるように言語を中心としたサポートをすることを目的とした事業のこと。当院は2004年9月から参加しています。



◆医療通訳の利用範囲

受付、外来診察、検査、薬処方箋交付、医療費の支払いなど、医療通訳の費用は無料です。

対　応　言　語		月	火	水	木	金
中国語	9:00～11:00（予約不要）		○			○
英　語	9:00～11:00（予約不要）					○
韓国・朝鮮語	9:00～12:00（予約制）		○	○		○

※この事業の対象となるのは、京都市に在住する多国籍市民の方です。原則、外来受診が対象であり、旅行者や入院・手術時の対応は対象ではありません。

◆タブレットによる多言語映像通訳サービスを導入開始しました!

昨年10月より、テレビ電話で通訳サービスを受けることが出来るようになりました。中国語、英語、韓国・朝鮮語のほか５か国語について、受付や会計などでの一般的な通訳が可能です。また、診察の場面など専門的な医療用語を使った通訳については、中国語、英語、韓国・朝鮮語での対応が可能です。

～イベント・取組のご案内～　ご参加ください！

参加費無料

健康教室「かがやき」

「健康はつくるもの」です。一人ひとりが健康づくりに取り組み健康に過ごしていただけるように、健康づくりを応援する当院各科講師による健康教室を開催します。

●日　時　毎月第3金曜日　午後2時30分～午後3時30分
●場　所　北館7階ホール2
●定　員　先着順50名（予約不要）

11月16日（金）
『身近に起きる皮膚の病気』
12月21日（金）
『循環器疾患から見つめる終活』
1月18日（金）
『脳梗塞の診療について』

禁煙教室 ～吸う人も吸わない人も知って得するタバコの不思議～

タバコ煙の成分やニコチン依存症のしくみ、タバコによる健康被害、禁煙のコツなど、様々な視点から話をします。禁煙希望者には医師などが具体的なアドバイスを行うほか、その場で当院の禁煙外来を予約することができます。

●日　時　毎月第2金曜日　午後2時～午後3時
●場　所　北館7階ホール2
●対　象　京都市立病院に入院や通院している方に限らず、禁煙に興味のある方ならどなたでも

糖尿病教室

糖尿病は、療養を怠ると数多くの恐ろしい合併症が現れる反面、適切な治療を続けていれば、健康な人と変わることなく生活することができます。糖尿病についての正しい知識を持って、糖尿病と向き合っていきましょう。

●日　時　毎月第3木曜日　午後3時～午後4時
●場　所　北館7階ホール1

11月15日（木）『今日からはじめる食事療養!』
『いつまでも元気にいられるための運動療法』
12月20日（木）『ガッテン 治療を支えるお薬の話 ～内服薬編～』
『これであなたも大丈夫 ～糖尿病とうまく付き合うコツ～』
1月17日（木）『糖尿病の合併症 ～三大合併症から認知症まで～』
『お口のケアから見直す糖尿病』

がん患者・家族のサロン「みぶなの会」

がんで療養中の患者さんとそのご家族の集まりです。患者さん同士で、色々な悩みをお話したり、情報交換ができます。人と話をしたり、話を聞くだけでも、気持ちが軽くなるものです。気軽な気持ちでご参加ください。

●日　時　毎月第3水曜日　午後1時～午後3時30分
毎月第4水曜日　午後1時～午後3時30分
※12月は、第2、3水曜日の開催です。
●場　所　北館7階サロン
●対　象　がん患者さん及びそのご家族

敷地内全面禁煙　路上喫煙はやめましょう!
喫煙はマナーを守って決められた場所で。

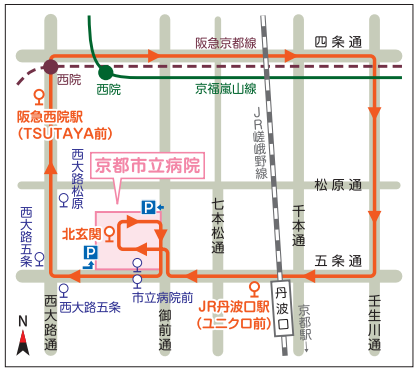
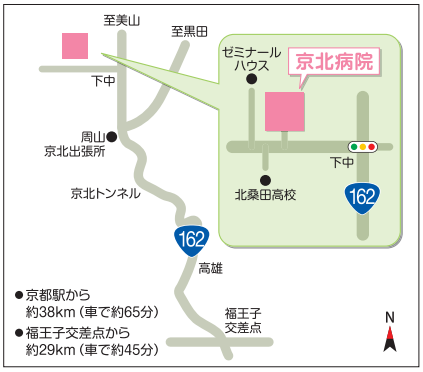
送迎バス時刻表（無料・予約不要）※平日のみ（土日祝・年末年始は運休）

時間	京都市立病院 ～出発～		阪急西院駅（TSUTAYA前）		JR丹波口駅（ユニクロ前）		京都市立病院 ～到着～	
8時		30		35		45		50
9時	00	30	05	35	15	45	20	50
10時	00	30	05	35	15	45	20	50
11時	00	30	05	35	15	45	20	50
12時	00	30	05	35	15	45	20	50
13時	00	30	05	35	15	45	20	50
14時	00	30	05	35	15	45	20	50
15時	00	30	05	35	15	45	20	50
16時	00	30	05	35	15	45	20	50

当院のことをもっと知りたい方は、詳しくは、京都市立病院のホームページをご覧ください。

やすらぎ　2018・秋号　2018年10月23日発行
発　行：京都市立病院機構 京都市立病院
〒604-8845
京都市中京区壬生東高田町1番地の2
TEL 075-311-5311
FAX 075-321-6025

京都市立病院
〒604-8845
京都市中京区壬生東高田町1番地の2
TEL 075-311-5311（代）
FAX 075-321-6025（代）
http://www.kch-org.jp/



京都市立京北病院
〒601-0533
京都市右京区京北下中町鳥谷3番地
TEL 075-854-0221（代）
FAX 075-854-0825（代）
http://www.kch-org.jp/keihoku/